

鳥取 YEG 通信

TOTTORI YOUNG ENTREPRENEURS GROUP



発行: 令和2年8月15日
鳥取商工会議所青年部
広報委員会

鳥取商工会議所青年部通信

8

August 2020

令和2年度

会長あいさつ



鳥取商工会議所青年部
会長 荒田潤之介
株式会社 千代田工務店

夏の日差しが一層厳しくなり、夜には鳥取県が推進している『星取県』の美しい満天の星が、より綺麗に見えるようになってまいりました。皆さまにはコロナ禍の大変な状況ではありますが、是非鳥取の星空を眺めていただき楽しんでいただければと思います。

状況が刻々と変化する新型コロナウイルス感染症は、まだまだ予断を許さない状況にあります。しかしながら、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図らなければ地域の活性化に大きな影響を及ぼしてしまふこともあり、判断の難しい状況が続いております。

鳥取商工会議所青年部も、現在10月活動再開に向け、WEB会議システムのライセンスを購入し、リモートや3密対策を行った会議を各委員会が始めました。

コロナ禍で、活動しにくい状況ではありますが、地域の商工業発展のために今できることを会員の皆さまと共に前を向いて活動していきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

先日、地方紙に鳥取商工会議所青年部の鳥取県観光施策である『星取県』の取り組みをご紹介いただきました。私たちが2016年度、星取県構想の提言をさせていただいてから、これまでの主な取り組みをご紹介します。

2016年度、星取県構想の提言をさせていただき【サッポロビール黒ラベル星取県鳥取缶】と、『星取県切手シート』をそれぞれ数量限定で販売を行い星取県の発信を行いました。
2017年度は、『鳥取県星空保全条例』を提言させていただき県の条例になりました。

また、星取県という新たな魅力を発信するとともに、滞在型観光の促進を目的に『グランピング★スターツアー東浜ビーチテラス』を開催、さらに星取県の魅力を伝え観光促進につなげる『星取PV』を制作いたしました。

2018年度は、鳥取YEGの40周年記念事業として『トレジャーアイランド湖山池グランピングパーク』を開催し、星取県の魅力をグランピングと掛け合わせて県内外の皆さまに発信させていただきました。

2019年度には、星取県を県内外にPRする目的で星取県に因んだ商品『星取カレ』を開発・商品化し、東京や大阪で、星取県をPRしてまいりました。

また、これまでの星取県の取り組みを検証し、今後の展望をにらんで『日本一の星の美術館設置（オートキャンプ場）』昼の砂美・夜の星美』を提言させていただきました。

そして今年2020年度は、今後星取県の更なる推進のために何をしていくべきか、具体的に模索する年として位置付け活動してまいります。星取県は多くの可能性を秘めています。しかしながら課題もありません。鳥取県としっかりと連携をさせていただきながら、取り組んでまいりたいと思っております。

最後にコロナ禍で大変な状況であります。鳥取の商工業の発展のため、まず今できることを精一杯、頑張っていきたいと思っております。

6月理事会開催について

6月30日（火）19時より、シスコシステムズ社のWebExによる完全リモートにて理事会を開催いたしました。

すでに所報やホームページでもお知らせしておりますが、現在青年部は、全ての対外的・対内的な事業を9月30日まで休止しております。ただ、10月の活動再開に向けて、地域と商工業の発展に向けた活動の歩みをとめてはいけないという会長の信念のもと、段階的ではありませんが、理事会及び委員会活動を再開していく所存です。

今回の理事会では、活動再開に向けてのガイドラインの共有や、春に行った事業の報告などを主に協議・審議いたしました。

私自身、オンライン上とはいえ、久しぶりに多くの会員の顔が見えたこと、また理事の皆さまの熱い情熱を画面越しに感じられたことが非常に喜ばしかったです。

新型コロナウイルスの脅威は衰えることなく、当面はオンラインでの会議、または対策を徹底しての対面形式での会議が主となりそうですが、10月には最高の形での活動再開ができるよう、4役・理事・各委員会が知恵を絞っていきたいと思っております。今後の展開にどうぞご期待ください。

専務理事 森下大輔



リモート会議の様子

鳥取YEG 新型コロナウイルス 感染症を乗り越える!

緊急事態宣言発令。 現役会員にインタビュー



まち興し委員会
しゃんしゃん亭 店主
本城 誠 君 平成28年8月入会

緊急事態宣言が発令されどの
ように思いましたか?
本城：お客さまが減るのはもちろんです。感染された方の来客が一番怖かったです。

2ヶ月休業したと伺いましたが、どのように過ごしましたか?
本城：もともと知り合いで、お米を仕入れている田中農場さんから手伝いの誘いがあったので草刈り、苗運び、畑の石拾いなどの手伝いをしていました。

手伝いをやってみてどうでしたか?また、何が大変でしたか?
本城：料理をする中で扱っている食材のことを少しでも知りたかった。生産者の気持ちや苦労を学べて良かったです。意外と大変だったのが、白ネギを作る畑の石拾いです。あと、あぜ道の草刈りも山の奥で、さらに傾斜もきついため何往復も大変でした。

その他には何をされていませんか?
本城：夜は雇用を守る意味も含め従業員と手作りマスクを作っていました。

今後の展望はありますか?
本城：まだ決めているわけではないですが、インターネットを使って販売したり、密集を避けるためにも繁華街から離れた所にお店を出したりしたいですね。

本城委員、お忙しい中で協力ありがとうございました。
インタビュー・記事
広報委員会



委員長インタビュー



会員増強委員会
委員長 野藤 実
令和2年度、会員増強委員会委員長を拝命いたしました野藤実でございます。

した野藤実でございます。
会員増強委員会は、読んで字の如く会員を増強するのが主な目的であります。『みんなで会員増強20人以上』と重点活動項目もあります。さらに、ただ会員を増強するのではなく、鳥取YEGメンバー全員で達成できるように、メンバーをフォローし、『常に増強』を意識付けし、鼓舞する委員会活動をしていきたいと考えております。また、異業種交流会を新人研修と兼ねて開催したいとも考えております。



ビジョン推進特別委員会
委員長 村田 浩一
当委員会は、鳥取YEGで初めて組織された委員会

です。
ビジョンに掲げた全国屈指の青年経済団体となるべく、組織作りと5つの鳥取力の向上を図り、ビジョンの推進と検証を行います。
そのために、ビジョン策定3年目の推進・検証方法を検討し、取り組んでいくこと、地域の未来を担える組織となることを目指し、活動を行ってまいります。
当委員会の一人一人がビジョンを体現し、会員に浸透させ、年度の終わりに対してビジョンが少しでも浸透し、また、全国屈指の経済団体に近づくことができるように活動してまいります。何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

今後5年間のビジョン。 活動指針看板とのぼりを作成

当委員会では、ビジョンなどをさらに推進・浸透させる方法について、1月からコロナ禍で活動休止になる2月頃まで協議してきました。

委員会が出た意見を集約して形にし、この度、ビジョンなどを推進する一助となるように、看板及びのぼりを作成いたしました。

会員が一番多く集まる機会である例会会場に、ビジョン・活動指針の看板とのぼりを設置することで、多くの会員にビジョンの浸透を図ることが期待できます。

また、事業を行う会場に置くことで外部の方や参加者にも当会のビジョンを見ていただき、当会の目指している姿を知っていただくことも可能となります。

活動休止中で、実際に使用を開始するのは活動再開予定の10月の例会からになると思っております。

活動再開の暁には、この看板・のぼりのもと、会員一丸となって、ビジョンなどに掲げた姿を目指して活動してまいります。

ビジョン推進

特別委員会

委員長 村田浩一



スローガン・活動指針を掲げた看板



活動指針を掲げたのぼり旗